

このゲームに登場する深海の生き物たち

名前	すんでいる場所	大きさ	特徴
1 ユノハナガニ	熱水噴出孔周辺の海底	甲羅の大きさ4～5センチ	1. 透明がかった白い殻に覆われている 2. 目をもたない 3. 圧力の変化につよいので、地上の水槽で飼うことができる 4. 動物の死骸や増殖するバクテリア・硫化酸化細菌がつくるバクテリアマットを食べる
2 チョウチンアンコウ	1000から2500メートルを漂う	オス4センチ メス30センチ (本によりデータがちがう)	1. 多くの種類ではオスは非常に小さくメスの体にくっついていて(寄生しないチョウチンアンコウも存在する) 2. 目の後ろに角のようなものがあり、全身棘に覆われている 3. 目は小さく発達していない 4. 体の色はたいていいろいろなチョコレート色、あるいは紫がかったくらい色 5. 獲物を誘き寄せるだけでなく、発光液を噴き出すこともできる複雑なつくりのイリシウム(頭の上の釣竿のようなもので、発光器がついている)をもつ
3 フクロウナギ	グリーンランド周辺の大西洋 水深2000メートルまで分布		1. 軟弱な皮膚がはがれかかっている 2. 小さな目の周りが頭で、後ろに伸びた顎の骨と首の周りの皮膚を大きな口で支えている
4 シーラカンス	アフリカ・コモロ諸島 インドネシアの深海	現在体長2メートル (化石はほとんどが金魚かフナのおおきさ)	1. 立ち泳ぎをして下方にいる獲物を探している。 生物の体から出る微弱を感じることができるらしい 2. 人間の手足の原型である肉質の柄で支えられたヒレ 3. 化石が発見される場所は現在とは異なり、淡水にすんでいた
5 シンカイクサウオ	日本海溝 水深7500メートル	十数センチから20センチ	1. 頭は丸くて大きく、尻すぼみの体型のせいで、おたまじゃくしにみえる 2. 半透明のピンク色をしている 3. 浮き袋が無く水分の多い体組織と体内にためこんだ油で浮力をつけて浮く
6 チューブワーム	海底下から硫化水素などを大量に含んだ海水が湧き出るような場所で発見されている	数十センチから2メートル	1. とじた袋状の形をしていて、口も消化管も無いきわめて特異な形をしている 2. 体の先端には鮮やかな紅色をした突起があり、残りの部分は栄養体と呼ばれている。 3. 栄養体の中には血管や生殖腺などがあり、化学合成細菌が共生している 4. エラ突起を当てて二酸化炭素・酸素・硫化水素などを細菌に供給し、その見返りとして細菌は硫化水素などをエネルギー源としてチューブワームが利用できる有機物をつくり、チューブワームに引き渡している 5. 太陽エネルギーをほとんど利用することのない、独自の生態系を
7 センジュナマコ	3000から6500メートルの深さ	約10センチ	1. 歩行器官が変形してできた背中に二対の長い突起を持つ 2. 左右5～7ついの大きな足で海底を歩く 3. 深海底のどの野中のわずかばかりの有機物を集めて食べる生
8 キンメダイ	水深200から300メートルの岩場	50センチ	赤い色をしており、目は金色に光って見える
9 メンダコ	水深数百メートルの海底		1. 赤い色をしていて体は非常にやわらかい 2. 耳たぶのようなヒレがついていて、泳ぐためのスピードを出すためではなく単に姿勢の制御にしか使われない 3. 普通のたこのように体の中に水を取り込む隙間は非常に狭く、その代わりに腕やその間の膜そしてヒレを使って泳ぐ。ゆっくりだがエネルギーを使わないので食物の少ない深海では好都合 4. べたっと座っているときは丸くなっているが、水からあげられて重力が直接かかると薄っぺらく、べちゃんこになってしまう
10 タチウオ	水深100メートル前後の中層	1.5メートル	1. 斜め上をむいて泳ぐ(立ち泳ぎをする) 2. 体は銀色で鏡のよう 3. 牙が鋭い
11 ミツマタヤリウオ	水深1000メートル付近	オス3～4センチ メス30～40センチ	1. 細長く真っ黒な体は海中ではブルーに見える 2. あごの下には発光器がついたひげのようなものがたなびいていて、獲物をおびき寄せる 3. メスは30～40センチに達するが、オスは3～4センチ程度で精巣は大きくなるが消化器官などは退化している(おそらく幼少時代の後、すぐに成熟して一生で一回の繁殖をして死ぬのだろう) 4. 腹の下に並んでいる明るい点も発光器
12 イラコアナゴ	浅いところから水深3000メートルまで分布	80センチ	死肉に真っ先にやってくる魚で大きな肉でも呑み込める

1. 「深海ファイル あなたの知らない暗黒の住人たち」
北村雄一著 ネコ・パブリッシング
2. 「しんかいの奇妙ないきもの」
太田秀著 (株)G.B.
3. 「ポケット版学研の図鑑4 水の生き物」
4. 「深海生物学への招待」
長沼毅著 NHKブックス

(使用したリーフレット)
「水と生命の惑星 地球そして海」
独立行政法人海洋研究開発機構

(使用したホームページ)
ハイパー海洋地球百科事典(海洋研究開発機構)
<http://www.jamstec.go.jp/opedia/Docs/desc.pl?doc=21>